



平成25年度

## 第11回みみらんどセミナー

先輩の話を聞く会①

☆ 実施日時 ☆ 平成25年11月6日(水) 13:00~14:30

☆ テーマ ☆ 「子どもと共に歩んできた道」

☆ 講師 ☆ 福島県立聾学校卒業生の保護者  
(特定非営利活動法人『和(なごみ)』で働いていらっしゃいます。)  
大内 ゆり子 氏

聾学校卒業生の保護者を講師に迎えた第11回みみらんどセミナーの概要を報告します。生まれてから現在までの親子のかかわりや進路を決めるときに考えたこと、現在の仕事や生活の様子などについて具体的にお話していただきました。



2歳のとき、聴覚障がいがあると診断されて聾学校本校教育相談を受け、幼稚部に入学しました。幼稚部3年間では、集団での活動に入らず、一人遊びをしていることが多かったです。小学部に入るとき、養護学校も見学し進路を考えましたが、同じ仲間とこのまま通いたいと聾学校小学部への入学を決めました。小学部4年後半には、通学に時間がかかることや子どもの自立を考え、光風学園に入園させました。最初は学園に入ることに強い抵抗を示しましたが、次第に慣れ、生活リズムが整い、身辺処理等についてもきちんと指導してもらってよかったと思います。中学部に入るとき、学校から他の選択肢もあると言われましたが、親としては聾学校と決めていました。中学部で、聾学校福島分校出身の保護者と出会い、聾重複の会があることを教えてもらい、全国大会に参加したり、埼玉県のどんぐりの家を見学に行ったり、親子で様々な体験ができました。その活動の中で、中学部から6年間、施設を作ることを目的にして、不用品を集めてフリーマーケットに出したり、お菓子を焼いてイベントで販売したりして資金を集め、高等部卒業後、「なのはなの家」を開所しました。補助金を受けず、牛乳パックを使っての紙製品作りは収入が少なく、保護者も一緒に働きましたが、運営はきびしいものでした。「なのはなの家」を閉所することになり、通いやすい施設を探したら、『特定非営利活動法人 和(なごみ)』がありました。この施設は、他にも難聴の人がいたり、他の障がいの人がいたり、また指導員に手話教室に通った人もいて、私の理想でした。現在、息子は送迎サービスを受けながら、週五日『和』に通い、伝票の整理・仕訳、注文票の作成、がんもどきの製造等を行っています。アニメのテレビを見ること、好きな雑誌やアニメの本を買うこと、日曜日に父親と温泉に行くこと等を楽しみにしています。私も、豆腐のお店の二階のリサイクルショップを担当し、保護者の交流の場となるように施設利用者の保護者の手作り品等も置いて交流を進めるなど、保護者としてできることはやっていきたいと思っています。これからは、施設の継続とグループホームを大きくすることを目指していきたいと思っています。

参加者からは、「遠い先のことではない。」「大変参考になった。」といった感想が聞かれ、お子さんの進路について考えるきっかけをいただいた講演会となりました。